

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670400229		
法人名	有限会社 中川開発		
事業所名	グループホーム 阿南向日葵		
所在地	徳島県阿南市日開野町筒路10-1		
自己評価作成日	令和元年 12月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員が利用者と家族の思いをくみ取れるような介護や生活支援を目指し、目標に向け施設内外の研修に参加したり、資格取得に向け研鑽している。家族会の開催などで家族や地域住民の方々とも合同で集える機会を設けたりと「この地域で共に過ごす人たち」と認識してもらえよう運営している。事業所周辺にはショッピングセンターや様々な店舗が立ち並ぶ反面、田んぼも点在しており、情緒豊かな暮らしを送ることが出来る地域である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、大型ショッピングセンターや多くの商店が立ち並ぶ市街地に位置している。周辺は、人や車の出入りが頻繁でにぎやかな所であるが、事業所内は、ゆったりと落ち着いた雰囲気がある。理念に“希望・笑顔・思い”を掲げ、全職員で共有し、利用者の高齢化・重度化等に配慮しながら、一人ひとりの思いに寄りそった支援に取り組んでいる。事業所は、他事業所のデイサービスやデイケアを活用したり、事業所内で家庭菜園作りを行ったりして、利用者の希望する暮らしを継続できるよう、家族と協力しながら支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初心に帰り理念の理解を行い、介護者の正しい判断ができていないか話し合い、実践している。	事業所では、全職員で話しあい、新たに“希望・笑顔・思い”という理念を掲げている。毎朝の申し送り時に理念を唱和し、共有している。また、日ごろの支援について振り返りを行い、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所、利用者と地域住民の交流を図り、近隣スーパーやリハビリの為に通院など今までの生活に近づくよう努めている。	利用者と職員は、近隣のスーパーに買い物に行き、近隣住民と挨拶を交わすなどして、日常的に交流している。地域の一員として、ひまわり街道の草抜きや廃品回収に参加している。事業所が開催する餅つき大会等の行事に、近隣住民の参加を得るなどして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のイベントとして、家族会などを通じて地域住民の方々にも認知症の人に対して事業所や地域の方々ができることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状を説明し、委員からの意見を参考に、地域と共に良い地域づくりができるように努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者家族や、市担当者、有識者等の出席を得ている。会議では、事業所の報告のほか、季節に応じた議題について話しあっている。出された意見は、共有し、運営面に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市役所を通じて事務的な流れを教えられたり、スムーズな運営、ケアが行えるように指導、提案をもらっている。	職員は、毎月、市の担当窓口を訪問し、各種報告を行っている。その際に、市担当者に事業所の実情を伝えたり、事業所の課題解決に向けた話し合いを行ったりして、連携体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないよう職員会議や日々のミーティングにより勉強会を行い防止に努めている。	事業所では、勉強会を開催し、身体拘束の内容や弊害について全職員の理解を深めている。直近のニュースなどについても、職員間で話しあい、方針を確認している。現在、利用者の安心・安全を考慮し、やむを得ず玄関の施錠を行っている。	利用者の安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援するために、引き続き話し合いを重ねたい。玄関の施錠に向けて、さらなる工夫に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する事例などを参考に、常に相手の立場になって考え言動出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括や社協に相談したりしながら、必要な利用者への支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をして契約を交わしている。また改定時には家族会でも説明し疑問が残らないよう同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の苦情相談体制の日頃の面会時に利用者の近況報告をし家族と職員の密な関係づくりに努めている。また電話や毎月送付しているサマリーなどを介し家族にも提案してもらうように努めている。	事業所では、家族の来訪時や家族会で利用者や家族の意見や要望等をきいている。遠方の家族には、電話やサマリーを介して意見や要望等を引き出している。得られた意見は、運営面や日ごろの支援に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で運営者と職員が話し合う場を持ち業務に反映をしている。	月1回、職員会議を開催し、職員の意見や提案をきき、話しあいを行っている。代表者は、職員が意見や提案を出しやすい雰囲気づくりに取り組み、備品の購入など、職員の意見や提案を運営面や日ごろの支援に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員からの提案や要望を聞く機会や話し合う場があり、働きがいや向上心を維持出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議にて勉強会をしたり研修をしている。県主催の研修や市や包括支援センター主催の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市、包括支援センター主催の研修を通じて情報を交換したり取り組み方の提案をし合い質の向上をさせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面会時から利用者や家族の要望を把握出来るように努め信頼関係を持って安心、安全等のサービスが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾けながら有意義な提案につながるよう、信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と利用者のニーズを見極め相手の気持ちになって一緒に支援内容を考えています。今まで出来ていたことなど積極的に提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで生きてきた人生の自信や自負を真摯に受け止め、尊厳を損なわないよう自立を目指し共に過ごすパートナーとしてお互いに支え合い有意義な日々を過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思いを汲み取り、それを代弁して協力してもらったり家族会などを通じて家族同士の交流を深めるなど、より良い信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの習慣や馴染みの人や場所の把握に努め行きつけの美容室へ家族の協力を得ながら継続支援をしている。	事業所には、利用者の友人等、馴染みの方の来訪があった際は、快く受け入れている。事業所は、家族の協力を得て、利用者の行きつけの美容院や商店等、馴染みの場所への外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の生活リズムを尊重した上で共同生活の中でお互いの関わりが生まれるよう、また孤立させないように職員間で情報を交換しながら支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も必要に応じて相談に乗ったり、イベントに招いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族の要望を聞いて、出来るだけ実践出来るように努めている。	職員は、利用者との日ごろのかかわりのなかで、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握した意向等について職員間で話しあうなどして、本人本位に検討し、支援の実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣や生活歴を収集して入居後も維持出来るように努め、ニーズも調整している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に記録し、その日の状態が分かるように記入し申し送りには伝達し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや職員会議にて話し合い、担当職員以外からの情報収集し共有している。また家族の面会時にも要望や意見を聞いている。	事業所では、利用者や家族の希望や医師の意見を反映した介護計画を作成している。定期的な見直しのほか、利用者の心身状況の変化に応じて話しあい、現状に即した介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入以外にも業務日誌に特記事項として記入し職員全員が見えるようにし、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢化した家族親族の代わりに通院援助や手配をしたり、状態や状況を電話で伝える手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者に一番身近な資源を家族と共に協力しながら今までの生活が本人の意向や能力を用いて、安全で豊かな生活を出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の健康診断には家族共に主治医の信頼関係が作れるように配慮している。今までのかかりつけ医を継続しているかたもいる。	事業所では、利用者や家族の希望する医療機関の受診を支援している。週1回、協力医療機関の医師の往診がある。歯科医の往診もあり、専門医の受診についても家族の協力を得て、支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の体調管理や急変時の対応など、オンコール体制をとって連携をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医への連絡や入院時の情報提供や早期退院に向けての相談支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期を考慮した話を家族とも行い、状態の変化に応じて家族と本人が望む姿を模索し、ホームでの看取りに関して出来る事出来ない事を明確にし、家族と共に取り組んでいる。	入居時の段階で、利用者や家族に重度化や終末期における事業所の対応について説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、意向を確認している。医療機関と連携を図り、利用者や家族の意向にそった終末期を迎えることができるよう、チームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で対応、訓練をしているが十分ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月11日を防災の日として災害時に備えた訓練や勉強会をしている。また備蓄の消費期限や在庫確認をしている。ちいきとの連携は薄くなっている。	年2回、利用者とともに火災や地震等を想定した避難訓練を行っている。食料や日用品等の備蓄を整備し、炊き出し訓練を行うなど、災害時に備えているが、今年度は訓練に地域住民の参加を得られていない。	地域住民に働きかけ、災害時の協力関係の構築に取り組みきたい。夜間帯における職員のみでの避難誘導の限界をふまえ、地域の協力を得て、訓練を行うなど、連携に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	専門性と慣れの違いを確認し、一人一人が持っている尊厳を自覚しながら、その人らしさを大切に行けるよう心掛けています。それを同僚にも確認し合っています。	事業所では、勉強会を開催し、利用者の尊厳やプライバシーについて理解に努めている。利用者への声かけや日ごろの支援のなかでの気づきについても、職員間で意見交換し、利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の中で利用者本人が自分からしたいことや新しくしてみたいことをひきだし、継続が出来るように寄り添った支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが気分転換ができ、自発的な活動を引き出せるような対応に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室に行ったり、季節ごとの衣類の衣替えも家族に手伝ってもらったりし、その人らしさに合わせた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と食材の買い出しや畑で収穫した野菜を調理したり、食器拭きなどを一緒に行うことで共同生活の役割や食に関心を持てるように支援をしている。	事業所では、職員と利用者が買い出しに出かけたり、家庭菜園で収穫した野菜等を用いたりして、調理を行っている。食器拭きやおしぼり畳みなど、利用者にとできることで役割を担ってもらっている。利用者と職員は食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をとっている。誕生日には、利用者の好きなメニューを提供し、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事や水分の摂取量をチェックし少ない場合は食べやすい物や栄養補助食品を食べていただいたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に毎食後、口腔ケアを行い、歯科医師による訪問検診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を把握し、必要に応じてトイレの声掛けや誘導と介助を行っている。	職員は排泄チェック表を用いて、利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。夜間は、利用者の睡眠を妨げないように、利用者一人ひとりにあわせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心とした食事と水分補給を行い、便秘傾向のある利用者には緩下剤の処方を受診している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の設定はあるが希望に応じたり、必要に応じて時間の調節を行っている。入浴拒否の利用者には、毎日声掛けをしてタイミングを図っている。	事業所では、週3回は入浴することができるよう支援している。浴槽に入ることができない利用者には、シャワーチェアを用いて、足湯とシャワー浴を行うなど工夫している。入浴剤を用いて、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は体調や希望に合わせて、自室でベッドに横になってもらっている。夜間では良眠出来るようにトイレ介助のタイミングも、見計らっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に状態を報告して、薬の効果を把握出来るようにしており服薬状況や症状の変化変化も申し送り、記録で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員参加のイベントや個々の生活習慣、要望にも応じられるよう、また活気ある生活が送れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などの日常的な外出に、家族の協力による外出、外泊などホーム以外に出かける機会を作っている。	事業所では、日ごろから近くのショッピングセンターや郵便局、散歩等に出かけている。また、庭の菜園の手入れや収穫を行い、気分転換を図っている。家族の協力を得て、お墓参りなどの外出や外泊をする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は金銭管理が難しくなっているが家族と相談して少額なお金を自分で所持している人もおり、時々確認している。預り金があり好きな物、欲しい物はすぐ買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者への電話の取次や本人からの要望による電話の対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる花や催し物の掲示等で環境作りや、音や光、温度などにも配慮して居心地の良く過ごせるように工夫している。	居間には、明るい日差しが差し込み、温度や湿度にも配慮している。利用者と一緒に季節の花を生けたり、季節のカレンダーを作成したりして、季節を感じるができる飾り付けを行っている。清掃も行き届き、清潔な環境を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の自席以外に状況に応じて各人が、自由に行動できる居場所づくりに努めている。職員が仲介して、利用者同士の関係が深められるようにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で慣れ親しんでいた家具や日用品、好む物を持ち込んでもらい心地良い空間でいられるように努めている。	居室には、利用者一人ひとりの馴染みの家具や思い出の写真等を持ち込んでもらっている。利用者がその人らしく暮らすことができる居心地のいい居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最低限度の手すりやナースコール設備、トイレや居室の名札など個々に合わせた介護用品を使用し、残存機能の維持や向上に配慮している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に全員で、理念を唱和し介護する者の心得、志、思いを改めて共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の行きつけの床屋や美容室に行ったり、以前から通いなれたスーパーに買い物に行かれています。毎食の食材は近隣のスーパーで毎日、仕入れています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や事業所のイベントを通して地域の方たちにも認知症にまつわること、一般の方にも出来る事、また事業所が地域に対して出来る事を伝え、すこしづつ着実に地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の実態を具体的に報告し、委員からの意見を参考に活かしている。地域と共に地域の礎となるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関する疑問や提案など運営推進会議や市役所を訪ねた際にやり取りして風とうしの良い関係になれるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議でどういう事が身体拘束になるか話し合ったり、勉強をしている。玄関の施錠はしない方がいいと思っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会はもとより、時折報道で耳にする事例なども参考にその人にとって嫌な気持ちにさせていないか、常に考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学んだり、地域包括支援センターや社会福祉センターに相談しながら、該当利用者、家族の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得を得ている。改定時には家族会、お便りで説明を行っている。質問も受付、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の苦情相談体制、及び市役所、国保連合会のそうだん窓口を紹介している。日頃の面会時に利用者の近況報告をし、家族と職員の間を密にし、相談しやすい関係作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で運営者と職員が相談したり話し合う場を設け、業務に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員の勤務状況や能力、努力を見極め、向上心を大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議で勉強会をしたり、必要とする研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会などの交流で事業所間と職員の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で本人、家族の要望を把握し信頼関係を持ってサービスが提携出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望はもちろんのこと、利用者にも要望を傾聴し三者にとって有意義な提案になるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と利用者のニーズを見極め相手の身になって一緒に支援内容を考えています。今できることやして差し上げたいことなどできる限りの対応をします。場合によっては他のサービスの提案もします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が主体となれるような環境づくりをしたり、ゆっくりとした時間のなかで関われる時間を取っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしか出来ない事も多くあり利用者の思いを汲み取りそれを代弁して協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活環境に近い状態で生活ができ、馴染みの物や場所、人が身近にあり、戸惑いが少なく安心して生活出来るように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の生活リズムを尊重した上で共同生活の中でお互いの関わりが生まれるよう、また孤立させないように職員間で情報を交換しながら支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム周辺の利用者家族も点在しており、利用終了後も運営推進会議やイベントに招いたり、お裾分けやあいさつや世間話をしたり、時には相談に乗ったりもする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や家族の要望を汲み取り、調整することで実践出来るように努めている。研修の一環として事例検討なども行い、真のニーズの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には利用者と家族からこれまでの生活習慣や生活歴などを収集し、ホームでも維持出来るように努め、これからの生活へのニーズも同様に把握し調整をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に記録し、その日の状態が分かるように記入し申し送りには伝達し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや職員会議にて話し合い、担当職員以外からの情報収集し共有している。また家族の面会時にも要望や意見を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入以外にも業務日誌に特記事項として記入し職員全員が見えるようにし、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢化した家族親族の代わりに通院援助や手配をしたり、状態や状況を電話で伝える手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者にとって身近な資源を家族と考えています。今まで利用していた店や馴染みの場所を利用しながら、以前の生活と関わって行けるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	調子が悪くなった時は、主治医や以前からのかかりつけ医の病院に行かれています。病院に行く際には情報提供しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で体調の変化やいつもと違う行動が見られたとき、記録や申し送り時、申し送りノートに記録し情報共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	怪我や病気で入院された場合管理者や担当の職員が見舞いに行ったり、主治医には普段の様子や違うところを情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が近づいた利用者の家族と、希望されるような看取りを話し合い悔いのない看取り介護が出来るように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルを作り訓練をしています。人口呼吸の仕方、AEDの使い方を学びました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域マップを作り災害時にどこに避難をするか、壁に貼ってあります。毎月11日を防災の日と決め、災害時にどのように動いたらスムーズに避難できるか対策を検討したり訓練をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	専門性と慣れの違いを確認し、一人一人が持っている尊厳を自覚しながら、その人らしさを大切に行けるよう心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の中で利用者本人が自分からしたいことや新しくしてみたいことをひきだし、継続が出来るように寄り添った支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが気分転換ができ、自発的な活動を引き出せるような対応に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からの好みや着方など、家族から聞いたたり利用者に尋ねるたりして支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の草抜きや野菜のせいらくをしたり、食器拭きなどかたづけを一緒に行い、共同生活でのやくわりが出来るように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の状況を確認し、少ない場合は好みの栄養補助食品、好みの栄養補助飲料を提供して補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別に口腔ケアをしており、出来ないところは介助しています。月1回の訪問歯科によるケアを受けて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し声掛け、誘導をトイレでの排泄を心掛けています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	細目な水分補給やレクでの運動をすすめたりし便秘の予防をしている。便秘傾向にある人は主治医から緩下剤が処方されており、症状により服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設定しているが、希望に応じて時間帯を調節している。入浴を拒まれる人には毎日声掛けをして入ってもらえるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は希望にや対策に合わせて自室で休んでもらったしている。就寝前に読書やテレビを見て入眠されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に状態を報告して、薬の効果を把握出来るようにしており服薬状況や症状の変化変化も申し送り、記録で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人その人にとって楽しいと思えることや出来そうな作業をしてもらったり以前からしていたことで、一人では出来なくなった事を職員と一緒にするなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなどの外出や家族との外出、外泊などを家族に奨励している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は金銭管理が難しくなっているが家族と相談して少額なお金を自分で所持している人もおり、時々確認している。預り金があり好きな物、欲しい物はすぐ買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者への電話の取次や本人からの要望による電話の対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる花や催し物の掲示等で環境作りや、音や光、温度などにも配慮して居心地の良く過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの時間をホールで過ごされる人が多いが、自由に自室に戻ってテレビをみたり、ベッドに横になったり、本をよんだり、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の望む物や以前からの慣れ親しんだ物を持ってきてもらい、心地よい空間で落ち着いた雰囲気でも過ごしていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバリアフリーはもちろんのこと利用者の状態に合わせた用具を家族や専門家に相談して使用している。		